

2. 日本語教育部門

日本語研修コース報告（2009年4月～2010年3月）

後藤寛樹

1 はじめに

大学院入学前予備教育日本語研修コースは、主として、文部科学省によって配置される大使館推薦国費研究留学生および教員研修留学生を対象とした日本語集中コースで、毎年4月と10月に開講し、各期15週間75日のコースを提供している。富山大学留学生センターでは、1999年10月に第1期を開講し、2010年3月には第21期生を送り出した。富山大学に配置される国費研究留学生の数は少なく、受講定員に余裕があるため、2000年10月開講の第3期日本語研修コースからは、学内公募を実施して、大学推薦国費研究留学生や私費研究生等も受け入れている。本稿では、2009年4月から開講した第20期と同年10月から開講した第21期について報告する。

2 受講者

第20期は、文部科学省からの配置学生はなく、学内公募による私費留学生6人が受講・修了した。第21期は、文部科学省から大使館推薦で配置された教員研修留学生1人、日韓共同理工系学部留学生在事業に基づいて本学に配置された学生（以下、「日韓生」とする）2人に加え、学内公募による私費留学生4人が参加し、合計7人が受講・修了した。第20期、第21期の受講・修了者は表1の通りである。

表1 日本語研修コース受講・修了者（第20期・第21期）

期	名前	国籍	指導教員
20	陳佳 (チン カ)	中国	富山大学 清家 彰敏 教授
	沙子 鈞 (シャ コキン)	中国	富山大学 唐 政 教授
	銭友 幸 (セン ユウコウ)	中国	富山大学 清家 彰敏 教授
	唐凌 (トウ リョウ)	中国	富山大学 唐 政 教授
	王石 (オウ セキ)	中国	富山大学 中嶋 芳雄 教授
	ホウ フン タオ	ベトナム	富山大学 山田 恭司 教授
21	スシュミタ マンダル	インド	富山大学 小川 亮 教授
	安大 煥 (アン デファン)	韓国	富山大学 チャピ ゲンツイ 准教授
	金兌 亨 (キム テヒョン)	韓国	富山大学 松島 房和 教授
	婁艶 輝 (ロウ エンキ)	中国	富山大学 岡田 裕之 教授
	呉玲 (ゴ レイ)	中国	富山大学 馬 駿 教授
	山都哈什 托坎 (サンドウハシ トカン)	中国	富山大学 升方 勝己 教授
	徐哲 (ジョ テツ)	中国	富山大学 唐 政 教授

※第20期は、上記の学生に加え、3人の私費研究生が受講していたが、いずれもコースの修了要件を満たさず、修了の認定がなされなかった。

※指導教員の職名は、それぞれコース修了時点の職名を記してある。

3 コース担当者

第20期、第21期ともに、センター専任教員5人（出原節子、加藤扶久美、後藤寛樹、副島健治、濱田美和）と、非常勤講師6人（中河和子、深川美帆、藤田佐和子、松岡裕見子、要門美規、横堀慶子）が授業を担当し、後藤寛樹がコーディネートを担当した。

4 コーススケジュール

第20期は、2009年4月9日（木）に開講式、同年9月14日（月）に修了式を、第21期は、2009年10月8日（木）に開講式、2010年3月4日（木）に修了式を行い、どちらの期も15週間75日の集中授業を行った。各期の主なスケジュールは以下の通りである。

<第20期>

2009年 4月7日（火） 学内公募選考
4月8日（水） 学内公募受講生：オリエンテーション
4月9日（木） 開講式
4月10日（金） 授業開始
5月27日（水） 異文化交流パーティー
6月12日（金） フィールドトリップ（（株）生産技術）
6月26日（金） 「私の国」発表会
7月25日（土） ホームビジット
7月31日（金）～8月31日（月） 夏季休業
9月2日（水） スピーチ発表会（「私の専門」発表会）
9月14日（月） 修了式

<第21期>

2009年 10月6日（火） 文科省配置学生：諸手続き、オリエンテーション
学内公募選考
10月7日（水） 学内公募受講生：オリエンテーション
10月8日（木） 開講式
10月9日（金） 授業開始
11月18日（水） 異文化交流パーティー
12月18日（金） 「私の国」発表会
12月23日（水）～2010年1月3日（日） 冬季休業
2010年 1月22日（金） フィールドトリップ（富山市民俗民芸村・五百羅漢）
2月6日（土）・7日（日） ホームステイ、ホームビジット
2月16日（火） スピーチ発表会（「私の専門」発表会）
3月4日（木） 修了式

5 コース内容

授業は月曜日から金曜日まで1日4コマで、日本語と日本事情、コンピュータを中心とした内容で行った（表2、3参照）。初級クラスの文法10コマ中8コマと聴解1コマ、中級クラスの午前中の10コマ（文法8コマ、聴解、会話各1コマ）は日本語課外補講の授業と合同で開講される授業である。通常の授業の他に、学生の個人の習熟度やニーズに合わせた指導を行うために、特別指導も行った。コース後半からは、専門課程への橋渡しの教育として、自分の専門についての口頭発表とレポート作成を行う「私の

専門」プロジェクトも課した。

第20期は、受講者を日本語能力に応じて初級と中級の2つのレベルに分けて授業を行った。第21期も同様に、受講者の日本語能力に応じて初級と中級の2つのレベルに分けたが、中級レベルは日韓生のみであったので、日韓生が専門科目の授業を受けている時間帯は、初級レベルの学生をさらに2つのクラスに分けて授業を行った。

5.1 時間割

表2 第20期日本語研修コース時間割

	1 (8:45 ~ 10:15)		2 (10:30 ~ 12:00)		3 (13:00 ~ 14:30)		4 (14:45 ~ 16:15)	
	初級	中級	初級	中級	初級	中級	初級	中級
月	文法 (要門)	文法 (高島)	文法 (要門)	文法 (高島)	作文 (加藤)	コンピュータ (濱田)	コンピュータ (濱田)	文法 (加藤)
火	文法 (横堀)	聴解 (濱田)	文法 (横堀)	会話 (副島)	聴解 (濱田)	作文 (藤田)	特別指導 (加藤・副島)	特別指導 (濱田・後藤)
水	文法 (後藤)	文法 (中河)	文法 (後藤)	文法 (中河)	読解 (横堀)	文字・漢字 (濱田)	日本事情 (出原)	
木	文法 (高島)	文法 (副島)	文法 (高島)	文法 (副島)	コンピュータ (後藤)	文法 (加藤)	文字・漢字 (副島)	コンピュータ (後藤)
金	文法 (深川)	文法 (松岡)	文法 (深川)	文法 (松岡)	会話 (後藤)	読解 (副島)	特別指導 (濱田・後藤)	特別指導 (加藤・副島)

※網かけのクラスは日本語課外補講と合同で開講されるクラスである。

表3 第21期日本語研修コース時間割

	1 (8:45 ~ 10:15)		2 (10:30 ~ 12:00)		3 (13:00 ~ 14:30)		4 (14:45 ~ 16:15)	
	初級	中級	初級	中級	初級	初級/中級*	初級	初級/中級*
月	文法 (要門)	文法 (高島)	文法 (要門)	文法 (高島)	聴解 (加藤)	コンピュータ (濱田)	コンピュータ (濱田)	聴解 (加藤)
火	文法 (横堀)	聴解 (加藤)	文法 (横堀)	会話 (副島)	作文 (藤田)	作文 (加藤)	特別指導 (加藤・副島)	特別指導 (濱田・後藤)
水	文法 (後藤)	文法 (中河)	文法 (後藤)	文法 (中河)	読解 (横堀)	文字・漢字 (濱田)	日本事情 (出原)	
木	文法 (高島)	文法 (副島)	文法 (高島)	文法 (副島)	コンピュータ (後藤)	文字・漢字 (加藤)	文字・漢字 (副島)	コンピュータ (後藤)
金	文法 (深川)	文法 (松岡)	文法 (深川)	文法 (松岡)	会話 (後藤)	会話 (副島)	特別指導 (濱田・後藤)	特別指導 (加藤・副島)

* 「日本事情」「特別指導」以外の午後のクラスについては、日韓生が出席する水3限の「文字・漢字」を中級レベルとして開講し、その他を初級レベルのクラスとして開講した。

※網かけのクラスは日本語課外補講と合同で開講されるクラスである。

5.2 日本語科目

初級クラスでは、基本的な日本語文法を習得し、運用できるようになること、文字についてもひらがなやカタカナ、基本的な漢字を習得することを目的として授業を行った。

中級クラスでは、これまでに身につけた文法や語彙の知識をもとに、中級レベルの文法や語彙を習得し、運用力をつけることを目指して授業を行った。さらに、第20期は、初級の文法事項の復習や整理の時間も設け、基礎力の補強も行った。

また、どちらのクラスでも、独自開発教材を用いて、正しい日本語の発音を身に付けるための指導も行った。

各クラスで使用した教科書等は以下の通りである。

初級クラス

主教材 『みんなの日本語』初級Ⅰ、Ⅱ（スリーエーネットワーク）

『かなマスター』（専門教育出版）、『Basic Kanji Book』Vol.1, 2（凡人社）

『毎日の発音練習』（独自開発テキスト）

副教材 『みんなの日本語 初級で読めるトピック25』『みんなの日本語 書いて覚える文型練習帳』『みんなの日本語初級 やさしい作文』（スリーエーネットワーク）、『わくわく文法リスニング99』（凡人社）、『クラス活動集101』『クラス活動集131』（スリーエーネットワーク）、『絵とタスクで学ぶにほんご』（凡人社）、『にほんごきいてはなして』（ジャパントイムズ）、『楽しく聞こう』『楽しく話そう』（凡人社）など

中級クラス

主教材 『J.Bridge』（凡人社）

『日本語中級J301』『日本語中級J501』（スリーエーネットワーク）

『みんなの日本語』初級Ⅱ（スリーエーネットワーク）

『新・毎日の聞き取り50日-上-』（凡人社）

『Intermediate Kanji Book』Vol.1（凡人社）

『毎日の発音練習』（独自開発テキスト）

5.3 日本事情

学内から国際交流学生ボランティアとして募集した日本人学生との交流・活動を通して、日本社会について学び、さらには習得した日本語を実際に使う機会を提供する。

また、留学生と日本人学生が共に自国の言語や文化に対する関心を高め、異文化を理解し、異文化コミュニケーション能力を養うことを目指す。

5.4 コンピュータ

この授業では、留学生が日本語環境でコンピュータの基本的な操作をすることができ、ひらがなやカタカナ、さらに漢字なども使って、正しい日本語の入力ができるようになることを目指す。また、あわせて、大学での勉学に必要な基本的な情報リテラシーの習得も目指している。

留学生には、日本語のコンピュータ用語が漢字語やカタカナ語が多いために難解であること、促音や拗音などの特殊音の入力が難しいなど、特有の問題があるが、それを克服できるように指導することが大きな目的である。また、専門課程での勉学に備えて、ワープロソフトや表計算ソフト、プレゼンテーションソフトなどを使えるようになることも目指し、同時に日本語での電子メールの書き方、インターネットの使い方、およびそれに付随する著作権やセキュリティ対策などについても指導を行った。

[使用テキスト] 『日本語学習者のためのアカデミックインフォメーションリテラシー』

(独自開発テキスト)

5.5 口頭発表プロジェクト

5.5.1 口頭発表プロジェクト

日本語研修コースに在籍する留学生は、そのほとんどが大学院へ進学する予定の学生であり、コースが始まって半年後にはそれぞれの専門課程に進んで専門の勉強や研究を始めなければならない。また、日韓生についても、コース修了後には学部の日本人学生とともにさまざまな授業を履修しなければならない。本コースでは、留学生が日本の大学・大学院での研究活動を効率的に進められるように、スピーチ発表会で自分の専門の内容を簡単に説明する口頭発表を行い、さらにレポートにまとめるというプロジェクトを学生に課している。学生それぞれの留学目的に合わせて、大学院進学予定の学生は、これまで自国で研究してきた内容と富山大学で研究したい内容について、教員研修留学生は、自国の教育制度の説明と富山大学で学びたい内容について、日韓生は、学部進学後に学びたい内容について、原稿を作成し、スピーチ発表会で発表し、レポートにまとめるというプロジェクトである。この活動は、一般日本語、コンピュータ、そして専門の学習が一体となって行われるものである。

具体的には、留学生は自分の専門について、専門用語を調べたり、必要な情報をインターネットなどから得たり、あるいは必要に応じて所属研究室の指導教員や学生に質問したりした上で、作文の時間に発表原稿を作成し、コンピュータの時間にプレゼンテーションソフトを使用してスライドを準備した。その後練習を重ね、最終的には、コース修了前に開催されるスピーチ発表会で、作成したスライドを示しながらプレゼンテーションを行った(5.5.2参照)。さらに、学生は発表原稿を元にしてレポートを作成した。学生の作成したレポートは、第20期、第21期のものをまとめ、日本語研修コース修了レポート集『らいちょう』として発行した(5.5.3参照)。

5.5.2 スピーチ発表会

スピーチ発表会は、第20期は2009年9月2日(水)に、第21期は2010年2月16日(火)に、それぞれ午後1時半より開催した。第20期は25人、第21期は24人の出席者があった。出席者は学生の指導教員やセンターに関係のある教員、学務部学生支援グループ留学支援チーム職員、ホストファミリー、富山大学の留学生および日本人学生などである。

留学生は、発表会に向けて、指導教員、同じ研究室の先輩留学生、日本人学生に協力してもらいながら熱心に準備を進めた。教員が原稿を朗読しテープに吹き込んだものを作成して学生に渡したり、授業時間以外にも発表の原稿をチェックするなどして、指導にあたった。

5.5.3 修了レポート集作成

スピーチ発表会で口頭発表を行った原稿をもとにレポートを作成し、修了レポート集『らいちょう』として発行した。留学生は各自の専門についてのレポートを作成した他、それぞれの期中表紙、寄せ書き、写真のページなどを共同で作成した。各自の能力を発揮し、話し合いを進めながら、コンピュータの授業で学んださまざまな文書の作り方などを能率良く活かし、完成度の高い文集を作り上げた。

6 成績評価

初級クラスでは、メインテキスト(『みんなの日本語』)に基づく定期試験および文字・漢字の試験を実施し、中級クラスでは、メインテキスト(『J.Bridge』『日本語中級 J301』『日本語中級 J501』)に基づく定期試験を実施し、また、聴解、会話、漢字のクラスでもそれぞれ試験を実施した。口頭発表プロジェクトについても、原稿と発表会当日の発表を教員が採点し、プロジェクトの成績を出した。コース修了時に、定期試験、その他の試験、口頭発表プロジェクトの成績を総合して、コース全体の成績判定を行い、コースへの出席率も含めた成績表を作成して、受講者本人と指導教員へ通知した。

7 コース評価

日本語研修コースでは、コース改善に役立てるために、コース終了時にコースエバリュエーションのアンケートを行っている。実施前に、成績等には全く影響しないことを伝えた上で、授業の内容、テキスト、教師の教え方、コンピュータ授業、口頭発表プロジェクト、日本人学生との時間、ホームステイ・ホームビジットについて、調査を行った。それぞれの期のコース評価の結果を表4、表5に示す。なお、回答方法は、5段階で評点をつけるものと、与えられた選択肢から該当する答えを選択するものがあるが、回答結果については後者の結果のみを掲載している。第21期の回答結果については、アスタリスクがついた項目は、日韓生も含めた回答結果である。また、自由意見は日本語または英語で記入させ、英語から日本語への翻訳、日本語の訂正はコーディネーターが行った。

表4 第20期コース評価

質問及び回答結果	自由意見
<p>(コース全体)</p> <p>コースは役に立ったか： 5段階評点 スケジュールはどうだったか： 忙しすぎる1人，忙しい1人， ちょうどいい4人 日本語は上達したか： した4人，普通2人</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 見学がちょっと少ない。 • 私はこのコースが好きです。
<p>(日本語の授業)</p> <p>授業はどうだったか： 5段階評点 教科書はどうだったか： 5段階評点 ハンドアウトはどうだったか： 5段階評点 教師の教え方はどうだったか： 5段階評点</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 授業はちょっと速いです。
<p>(テスト)</p> <p>テストはどうだったか： 5段階評点 テストは多かったか： 多い1人，ちょうどよい5人</p>	
<p>(コンピュータ授業)</p> <p>授業は役に立ったか： 5段階評点 テキストはどうだったか： 5段階評点 教え方はどうだったか： 5段階評点</p>	
<p>(口頭発表プロジェクト)</p> <p>プロジェクトはたいへんだったか： たいへん3人，ふつう3人 プロジェクトは役に立ったか： 5段階評点 発表会は役に立ったか： 5段階評点</p>	
<p>(見学)</p> <p>見学は楽しかったか： はい6人</p> <p>見学場所は適当だったか： はい6人</p> <p>見学の時期は適当だったか： はい6人</p>	<p>どんなところが楽しかったか</p> <ul style="list-style-type: none"> • 知能ロボットを見た。 • ロボットが好きだ。 • ロボットを見た。 • 踊りを踊るロボットを見た。

<p>(ホームビジット) 参加した5人の回答</p> <p>ホームビジットは楽しかったか： はい5人</p> <p>ホームビジットの時期は適当だったか： はい5人</p>	<p>どんなところが楽しかったか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パークゴルフをした。 ・日本の文化と習慣を理解した。 ・祭りを見に行った。
<p>(日本事情)</p> <p>日本人と一緒に勉強するのはどうだったか： (自由記述のみ)</p> <p>日本の文化を知らなければならないと思うか： 思う6人</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語をよく練習しました。よかったと思います。 ・役に立ちます。 ・一緒にスポーツをしたらいいと思います。 ・楽しかった。(2人) ・役に立ちます。日本の文化をたくさん教わりました。 <p>どうしてそう思うか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どものときから日本の生活と習俗が好きだから。 ・もし、日本の文化がわかれば、生活しやすくなります。そして、日本の友だちと話すのも簡単になります。

表5 第21期コース評価

質問及び回答結果	自由意見
<p>(コース全体)</p> <p>コースは役に立ったか： 5段階評点</p> <p>スケジュールはどうだったか： 忙しい2人, ちょうどいい3人</p> <p>日本語は上達したか*： した4人, 普通2人, しなかった1人</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ちょっと速いと思う。 ・会話の練習がたくさんあった方がいい。
<p>(日本語の授業)*</p> <p>授業はどうだったか： 5段階評点</p> <p>教科書はどうだったか： 5段階評点</p> <p>ハンドアウトはどうだったか： 5段階評点</p> <p>教師の教え方はどうだったか： 5段階評点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・よく計画されたコースだった。 ・ちょっと速い。もっと進度がゆっくりの方がいい。 ・日本語の授業はとてもしもいい。4月からも時間があるときに留学生センターで日本語を勉強したい。 ・学部に入るためには、今足りないと思う。 ・ちょうどよかったが、学生の方がもっと多かったらいいと思う。
<p>(テスト)*</p> <p>テストはどうだったか： 5段階評点</p> <p>テストは多かったか： ちょうどよい5人, 少ない2人</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・テストの前にもっと復習があるとよい。 ・もっとたくさんあった方がいい。 ・テストは難しかったが、役に立った。 ・少ししか勉強しなくても、普通の点数が取れたので、もっと勉強をがんばろうという気持ちはあまりなかった。

<p>(コンピュータ授業)</p> <p>授業は役に立ったか： 5段階評点 テキストはどうだったか： 5段階評点 教え方はどうだったか： 5段階評点</p>	
<p>(口頭発表プロジェクト) *</p> <p>プロジェクトはたいへんだったか： たいへん2人，ふつう5人 プロジェクトは役に立ったか： 5段階評点 発表会は役に立ったか： 5段階評点</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 日本語を使う自信をつけるのにいい機会だった。 • 日本語の練習にいい。 • 少し大変だった。
<p>(見学)</p> <p>見学は楽しかったか： はい5人</p> <p>見学場所は適当だったか： はい5人 見学の時期は適当だったか： はい5人</p>	<p>どんなところが楽しかったか</p> <ul style="list-style-type: none"> • 日本の文化を知ることができた。(3人) • 日本の古いものが楽しかった。 • 五百羅漢。 <p>• 日本文化を学べるところへ行きたい。</p> <p>• 土日に行けるともっとよい。</p>
<p>(ホームステイ・ホームビジット) *</p> <p>ホームステイ・ホームビジットは楽しかったか： はい7人</p> <p>時期は適当だったか： はい7人</p>	<p>どんなところが楽しかったか</p> <ul style="list-style-type: none"> • ホストファミリーがとても親切だった。 • ひな人形を飾った。 • 日本人家族と一緒に食事したり，遊んだりした。よかったと思う。 • 日本人の生活を体験できた。 • 日本のおいしい食べ物。 • 学校以外の日本人に会えたこと。
<p>(日本事情) *</p> <p>日本人と一緒に勉強するのはどうだったか：</p> <p>日本の文化を知らなければならないと思うか： 思う7人</p>	<ul style="list-style-type: none"> • すばらしい経験でした。 • よかった。日本語の勉強になったし，日本の文化についても知ることができた。 • とても楽しかったと思う。 • よかった。(2人) • 日本の友達がいらないから，日本語を練習するのに一番いい機会だった。 • 中級レベルの会話ができたならもっといいと思う。 <p>どうしてそう思うか。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 将来日本語を教えなければならないので，日本について知るいい機会になった。 • 日本人と交流すると日本の文化がよくわかる。 • 日本で生活するためには，日本語だけではなく，日本の文化も知らなければならないと思う。 • 日本で生活するのに必要。 • 日本で長く生活するので，日本の文化を知ることが必要。 • 自分の国と文化が違うから。 • 日本人と接する機会があるから。

このコースは1日4コマ、75日間の集中コースということもあり、受講者の中には研究活動を同時に進めながら受講している留学生がいるため、どうしてもスケジュールが忙しいととらえられてしまう傾向がある。とはいえ、第20、21期ともに、コースは役に立ったかという問いに対して、5段階評点でも平均4.7以上の回答が得られていることから、受講者のコースへの満足度は高かったと言ってよいだろう。自己の日本語の上達度についての問いに、多くの学生が「上達した」と答えており、この点からも受講者のコースへの満足度の高さがうかがえる。

日本語の授業やテストについての問いでは、5段階評点ではどの項目も平均4.5以上の回答が得られているが、自由記述で第20、21期ともに「進度が速い」という記述が見られた。どちらも初級の学生の回答であるが、初級クラスでは75日の授業期間で『みんなの日本語』I、IIを終え、間に定期テストも数回入るために、1日ないしは2日で1課進むというスケジュールになっており、どうしてもこのような意見が出てしまうことがある。これまでも在籍者の数や学習状況等に応じて、スケジュールの調整を行ってきているが、間になるべく復習日を入れるなどして、学生の負担が少しでも軽くなるように、授業スケジュールの調整や検討を引き続き行っていく必要がある。

コンピュータの授業や口頭発表プロジェクトについても、概ね高い評価を得ている。富山大学に留学生センターが設置された当初は、コンピュータの扱いに慣れていない留学生も多かったが、最近では、来日前に既に母語環境あるいは英語環境のコンピュータを使いこなしている留学生がほとんどである。そのような状況にあってもコンピュータの授業への評価は高く、それだけ日本語環境でのコンピュータの使用は留学生にとって困難を伴うものだと言えるだろう。口頭発表プロジェクトは、それぞれの専門について日本語で説明するというプロジェクトであり、発表会にいたるまでにかなりの労力と時間が必要となる。実際、口頭発表プロジェクトに対する質問でも、「大変であった」という回答が見られたが、一方で、自由記述では、「日本語を使う自信をつけるのにいい機会だった」「日本語の練習にいい」という記述も見られ、このプロジェクトが学生にとって良い動機付けになっていることもうかがえる。

見学、ホームステイ・ホームビジット、日本事情についても概ね良い評価が得られた。受講した学生たちは、これらの機会を、学んだ日本語を使う練習の場や日本の文化や週間を学ぶ場として、教室での日本語学習以外に日本や日本語について学ぶ良い機会だととらえられているようである。

8 おわりに

大学院入学前予備教育・日本語研修コースは、2009年9月で、第1期の開講から丸10年を迎えた。2010年3月には第21期生を送り出し、これまでの修了生は、文部科学省からの配置学生、学内措置による受講者を合わせて145人となった。この10年の間にも、コースを取り巻く状況の変化などに合わせてコース内容等を少しずつ変えてきたが、引き続きコースの運営のあり方や内容等を検討していく必要がある。特に、日本語研修コースの授業の一部を日本語課外補講との合同クラスとして開講するようになって4年が経過し、合同クラスとしての利点もある反面、ニーズや出席要件の異なる学生が同時に授業を受けることによる欠点も見え始めている。2010年度には、これまで研修コース単独の授業として開講していた初級クラスの一部の授業科目および内容を改め、日本語課外補講の学生も受講できるようにすることになっている。つまり、合同授業となる科目が新たに増えることになるので、現在見えてきている合同クラスの欠点をどのように補っていくかが大きな課題であると言える。

また、第20期は、3人の学生が修了要件を満たさずにコースを修了することができないという残念な結果となってしまった。この背景には、日本語の学習だけでなく、大学院入試の準備も含めた様々な事情があると考えられる。コースあるいは留学生センターだけでは解決できない側面も有していると思われるが、このようなことが続けて起こらないようにするために、コースとして、また留学生センターとしてどのような対策が取れるか考えていかなければならない。

今後も、指導教員や留学生のニーズをはじめ、日本語研修コースを取り巻く状況は変化していくことが予想される。さまざまな変化に瞬時に対応し、より中身の濃いコースが提供できるように、センター教員、コース担当非常勤講師をはじめ、受講者の指導教員や事務系職員とも連携を密にして指導にあたっていきたい。